岐阜新聞　2025年03月08日付　県内

気になるニュース　わたしの視点

理系と文系、ルート違うだけ

道家経営・法務事務所代表 道家睦明さん

中３理数学力、男女差なし

2月26日の社会面に、「中３理数学力男女差なし」という記事が出ていました。この記事で紹介されているのは、理系教科といわれる数学・理科についての興味や関心は、女子の方が低いのですが、実際の正答率は、男女差はない、という内容です。

さらに、昨年11月から岐阜新聞デジタルでは、「ぎふ高校研究」として、県内の高校の特色ある活動を紹介している特集を展開しています。その中に、美濃加茂市にある加茂高校の改革を紹介しています。その内容は「普通科と理数科を分けずに、文理探究科に改編する」というものです。

これらの記事に共通するのは、理系や文系といった既成概念で教育は考えられない時代になったということではないでしょうか。教育だけでなく、社会自体も、企業の中でも、ある程度技術に関心を持たないと、生活できなくなっているという背景もあるかもしれません。

岐阜新聞　2025年

中３理数学力 男女差なし

全国学力テスト、九州大分析

"女子は苦手"は思い込み

関心・興味は男子が上回る

渡辺恒雄さんをしのぶ お別れの会、各界から参列者

２月26日付24面より

皆さんは、「抽象思考」や「抽象学」という考え方をご存知でしょうか。「抽象」と聞くと、「抽象的だ」といったような使われ方が多く、どちらかというと「ぼんやり」「はっきりしない」といったネガティブな言葉に聞こえますが、そもそも「抽象」という言葉は、具象の反対語で、個々の事物の本質や共通の属性を抜き出して、一般的な概念として捉えるといった本来の意味があります。実験結果から、何が起こっているのかを明らかにすること。小説を読んで、作者が何を言わんとしているのか、考えること。どうしたらもっと早く走ることができるようになるのか、工夫すること。すべて、同じような「抽象思考」という考え方で成り立っていると考えられませんか。

人間は知的な好奇心の動物ともいわれ、好奇心が旺盛な人は、探究心も強く、物事の本質をつかむために行動もできるといわれています。情報が飛び交う世の中ですが、表面的な事柄だけで動くのではなく、その裏に潜んでいることについて、少しだけ思いを巡らせてみることが生き抜いていくには大切なのではないでしょうか。そう考えると、理系・文系というのは、登るルートが違うだけであり、最終的に考える対象は、同じなのかもしれません。

（引用記事は岐阜新聞デジタルの紙面ビューア８日付朝刊最終面に掲載）

どうけ・むつあき　1965年、羽島郡笠松町生まれ。慶応大商学部卒。中小企業診断士、行政書士。広告会社勤務を経て、道家経営・法務事務所代表取締役。2020年から愛知県立芸術大非常勤講師も務める。笠松町在住。

デジタル会員登録はこちら

©岐阜新聞